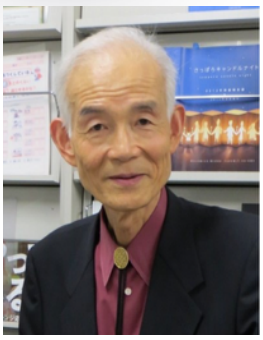
海浜美化フォーラム

2016年
2/13

<森・川・海～つながる自然環境>



講師：小林 三樹氏
(公財)北海道環境財団理事長
藤女子大学客員教授

札幌市環境プラザ(札幌エルプラザ2階)にて40名ほどが参加して「海浜美化フォーラム2016<森・川・海～つながる自然環境>」を開催しました。

昨年に続き、小林　三樹氏が「豊平川あってのまち・札幌」と題して講演して下さいました。小林氏は、昨年「海は広いな大きいな…は今」をテーマに、汚染された海の状態を講演して下さり、「海辺は陸と海が出会う豊かな場所、人間の営みが海ゴミの発生や漂着の原因にもなっている」とお話しされました。

今回は小林氏の専門である都市環境、特に水に関して、大都市札幌をピックアップして語られました。札幌市の水源、奥定山渓の森林に川や海から蒸発したH_2Oが循環し、また海へ帰る。海から奥定山渓まで循環できるのは水だけである。水源の森があってこそ安心できる。幕末に北海道の本拠地を選定したのは松下武四郎で、水源の森が豊かである札幌を選んだ、とのお話から、最も目から鱗だったのが、世界中の大都市で一番きれいで美味しい水が水道から出るのは札幌市のみであり、更にそれは”**バージンウォーター**”であることでした。

小林氏によると、本州では川の上流付近で使った水が下流の地域で再利用され、また下流へと繰り返し水の再利用が行われている。東京などでは数十回再利用された水を再利用して飲料水や工業用水に使用している。だから札幌市民は幸せであり、札幌の水道は「極楽水道」であると話されました。

また、昔から洪水の多い土地柄を洪水や氾濫などの自然災害から守るためになされた行政のダム工事や治水工事の苦闘の歴史、水害に強いまちづくりについて丁寧に説明され、また、大都会の真ん中に野生の鮭が回帰し、その鮭の遡上を見学できる鮭科学館まであり、世界的に稀な大都市であると話されました。

パネルディスカッションでは、石川清氏が「森・川・海のつながり」を漁業者からシジミの漁獲量が減少したことと森の荒廃についてなどの報告や千歳川放水路についてや、鮭の稚魚の放流や漁獲の問題など幅広く報告してくださいました。

海浜美化フォーラムの歴史

2003年より毎年1回、計14回開催。述べ950人が参加し、環境について学んできました。

第10回(2012.2.18) 50名「漁場環境の保全について」石川清氏、「海、知られざる世界」藤田尚夫氏
第11回(2013.2.23) 45名「森・川・海のつながり一劣化と復元の歴史」中村 太士氏
第12回(2014.2.22) 40名「流木は どんなもの？」齋藤 直人氏
第13回(2015.2.28) 45名「海は広いな大きいな…は今」小林 三樹氏
第14回(2016.2.13) 40名「豊平川あってのまち・札幌」小林 三樹氏

NPO法人 北海道海浜美化をすすめる会

勉強会&活動報告会

2016年
12/4

冬の期間、海辺での清掃活動ができない時は、勉強会&活動報告会です。一般や学生、いしかり海辺ファンクラブなど24名が参加しました。中根事務局長が講師となり、プラスチックが自然環境や人間に与える影響などを報告しました。会場からは「プラスチック製造や使用を少なくする運動をしよう」と、環境汚染に対する危機を確認しました。

その後は、活動報告のムービーで1年の活動を振り返り、Pコネによる活動報告があり、活動内容を解り易く、的確に捉えた大変良い発表でした。また、PコネOBの先輩3名が参加し、後輩と質疑応答する場面もあり、若い力を実感した回でした。

札幌エルプラザの和室での報告会は初めてでしたが、畳に座ることで気持ちが楽になり、学生や、高齢の会員、一般の参加者に一体感が生まれたのが不思議でした。

勉強会&報告会のあとは、忘年会を兼ねての親睦会を行いました。会員の誕生日をお祝いしたりなど、勉強会の雰囲気を継続し、アットホームな場になりました。

中根事務局長の講座

プラごみの影響について

浜の安全への思いを語る

Pコネの活動報告

NPO法人 北海道海浜美化をすすめる会